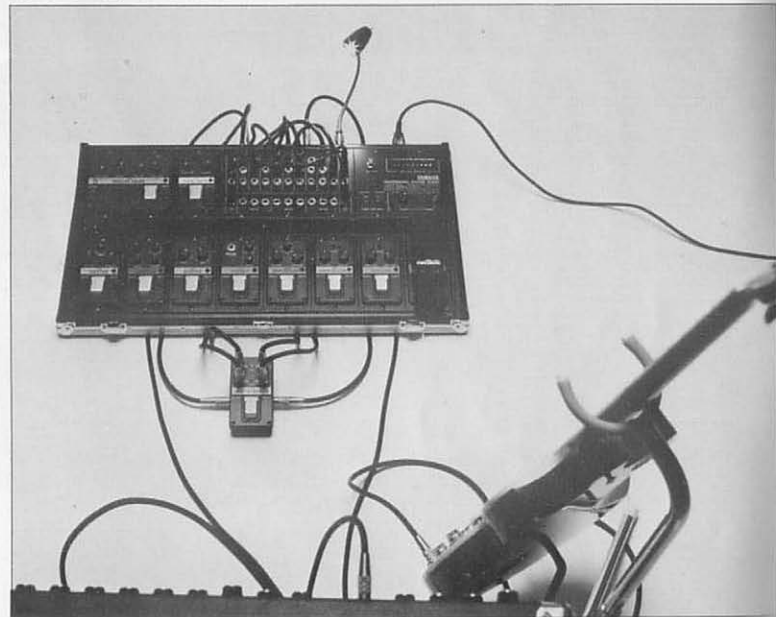


プロフェッショナル・システム・エフェクター。

ヤマハプロフェッショナル・システム・エフェクター(PSE)は、エフェクターユニットとしてのクオリティの高さと、システムエフェクターとしてのトータル性をあわせ持った、まったく新しいエフェクターファミリー。低ノイズ、ワイドレンジ、高耐久性といった基本的性能を追究したうえで、音楽性あふれるプレイヤビリティとコンテンポラリーなサウンドを実現。コンパクトに統一されたルックスも魅力です。さらに、多数のエフェクターを収納し、システムアップし、コントロールするためのシステムボードも世界で初めて製品化。新しいアイデアとテクノロジーをフルに活用した、プロフェッショナルのためのエフェクターです。PSEはトータルで15機種種のラインナップです。
phaser PH-01, chorus CH-01, flanger FL-01, analog delay AD-10, octaver OO-01, distortion DI-01, tone booster TB-01, parametric eq PE-01, mini pedal MP-01, compressor CO-01, limiter LI-01 noise gate NG-01, line selector LS-01, professional system board SB-100, professional system board SB-200.

世界初のシステムティックエフェクターです。

ヤマハはシステムエフェクターという新しい考え方を提案します。多数のエフェクターを使用する場合、従来問題となっていたセッティングのはん雑さ、音質の劣化、ノイズの増大といった多くのデメリットを、PSEは見事に解決。まず、PSEファミリーのサイズを規格化し統一。さらに、複数のPSEユニットを自由に組み合わせマウントするためのシステムボードを開発しました。ステージごとにセッティングしなおす必要がないうえ、各PSEユニットに装備されたジャンクションコネクターを通じ、パワーおよび信号の供給もシステムボード内で行なえます。加えて、音質向上・低ノイズ化のためのシステムボード内のローインピーダンス処理や、シンセサイザーのテクノロジーでもあるボルテージコントロール機能の導入など、システムならではの新しいノウハウも大きな魅力です。オフステージではシステムボード自体がアルミフレームのフライトケースに早変わり。ポータビリティも優れています。

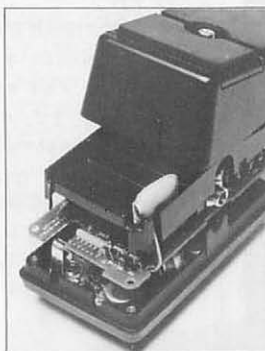


コンテンポラリーな音のエフェクターです。

ヤマハはエフェクターのなかに音楽性を表現します。今、ミュージックシーンに求められているものは何だろう。PSEの開発はそこから出発しました。2年余りにもよぶPSEの研究開発のプロセスで、ヤマハは数多くのミュージシャンの協力を得ることができました。例えば、山本恭司(バウワウ:ギタリスト)、小林克己(ギタリスト)、森園勝敏(ギタリスト)、山岸潤史(ギタリスト)、和田アキラ(プリズム:ギタリスト)、渡辺健(プリズム:ベースリスト)といった人々です。むしろ、ミュージシャンとの共同作業によって生まれたエフェクターである、と表現した方が適切かもしれません。PSEは、こうした音の専門家たちの貴重な意見と熱い期待を素直に反映しコンテンポラリーミュージックに最も必要とされているサウンドを実現。コンパクトなサイズのなかにワイドなバリエーションを秘めたエフェクターです。

カタログデータに忠実なエフェクターです。

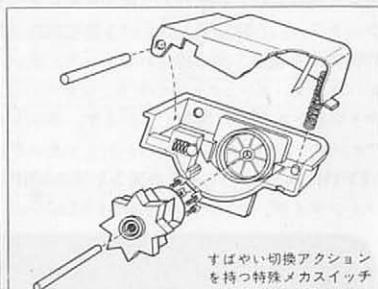
ヤマハはエフェクターにこそ高いクオリティを要求します。PSEの開発にあたって、音質、耐久性、コントロールレンジなど従来のエフェク



ターの問題点をはじめから洗い直し、パーツひとつひとつにいたるまでたんに念に検討。多くのPSE専用特製メカと最新のエレクトロニクスをふんだんに採用して、コンパクトなサイズに凝縮しています。例えば、エフェクトオン時のS/Nや、エフェクトオフ時の周波数特性など、エフェクターのいのちともいえる基礎的な音質を極限まで追究。そのうえで音色やサウンドレンジといった音楽的要素を徹底的に吟味しています。また、過酷な使用条件を想定し、メカ的な強度も重視。ノイズシールドを兼ねた堅牢なダイキャスト製シェル、抜群の耐用回数を誇るフットスイッチなど、ヘビーデ

ュータイプのみかニズムを各所に採用してあります。PSEは厳しい品質管理のもとに製品化されたプロフェッショナルエフェクター。カタログスペックこそがPSEの実力の証明です。

使いやすさを重要視したエフェクターです。



ヤマハはエフェクターのコントロール性を重視します。例えばエフェクトのオン/オフ切り換えを行なうフットスイッチひとつにも、長い時間をかけて専用のメカニズムを開発。電子スイッチにありがちなエフェクトオフ時の原音劣化の防止、スイッチアクションのスピードアップによるクリックノイズの低減、大きめのトルクと心地よいクリックによる明快なスイッチング感の3つを同時に実現しています。さらに、各パラメーターに合った目盛設定によって安定したスタジオリングのコントロール性を保証するコントロールノブ群、ひとまわり大きく明るいLEDインディケーター、ドライバーなしでもバッテリー交換のできるカバー、ショートや内部回路の損傷を防ぐ3層構造、エフェクターの滑りを防止する特製ラバー

トップパーetc. 細部にいたるまで、使いやすさを最優先させたさまざまな配慮が生きています。

